
林野庁の海外林業協力事業の紹介

馬 淵 征 雄

はじめに

昭和60年度予算は、我が国の行・財政改革等の強力な推進を背景として、超緊縮予算となっている。このため、林野庁所掌の海外林業協力関係予算（海外林業開発協力推進事業費）についても、大蔵省の示す厳しい歳出の節減、合理化、緊急施策に必要な財源の既定経費からの捻出、後年度財政負担の原則的禁止等を内容とする統一査定方針により、厳しい査定を受けることとなった。以下海外林業開発協力推進事業の概要を紹介する。

1. 海外森林適性開発推進事業費 5423千円

我が国の木材需要は約1億 m^3 で、その約6割を輸入材に依存し、このうちの約5割は東南アジア等熱帯地域からの南方材輸入によって確保しており、将来においても相当の供給量を輸入に頼らざるを得ないものと見込まれている。

一方、東南アジア等熱帯地域における天然林開発は、これらの地域の産業の振興、民生の安定等に寄与しているが、資源の維持・培養及び安定的・継続的な地域振興にたいする配慮が十分されているとは言い難い状況にあり、木材産地国においては環境破壊・資源保続への懸念が強まってきている。

東南アジア地域で生産されるフタバガキ科樹種、いわゆるラワン類は我が国において合板及び製材用として国民生活と切り離せないものとなっており、将来にわたって供給源を確保していく必要があるが、人工造林による森林造成はきわめて困難なうえ、効率的でもないことから、伐採跡地の稚幼樹を最大限に活用する天然更新技術の確立が急務とされている。

このため、本事業では今後のフタバガキ科等有用樹種の円滑な輸入等に資することを目的として、現地調査を通じて天然林開発に際し伐採段階から伐採跡地の更新、保全を考慮した新しい総合的な開発システムを確立することとしている。

2. 海外森林造成協力推進事業費 6157千円

FAO/UNEP「熱帯林資源評価調査」によると、熱帯地域の林地面積約30億haの

MABUCHI, Ikuo : Overseas Cooperation Activities Planned for the Fiscal Year 1985, under the Forestry Agency

林野庁指導部計画課

うち、裸地状、疎林状の林地面積は約 18 億 ha にも及びさらに毎年 1000 万 ha 以上もの森林が破壊されているとされている。

一方、年間の森林造成面積は森林破壊面積の 1 割に満たないわずか 90 万 ha 未満に過ぎない。

このために派生する莫大な裸地状の森林の存在は、木材生産の観点からの問題はもとより、農業生産環境の悪化及び水資源かん養機能の低下をもたらしてきており、さらには地球的規模での環境悪化の懸念さえ示されている。

一方、我が国は将来的には、木材需要のうち製材用材等一部については自給が可能となるものの、紙、パルプ用の木材については、今後も海外森林資源に依存せざるを得ないものと見通される。

これら問題の解決のためには、効果的な森林資源の維持、森林回復のための大規模造林が必要とされ、このためには、社会的、経済的及び技術的な観点からの調査研究とともに、実行体制確立への協力のあり方の検討等を総合的に推進する必要がある。

本事業は、これらの状況のもと開発途上国の持続的な発展に寄与すること等を目的として裸地状の林地での森林造成の推進に必要な低生産林地発生要因分析、早生樹造林技術のあり方等の基礎的調査を行うものである。

3. 海外林業適地適木調査事業費 28344 千円

FAO/UNEP「熱帯林資源評価調査」は世界の森林資源の減少、特に熱帯地域における森林資源の減少の著しいことを報告している。

このような熱帯地域の森林資源の減少は、木材供給を困難にしつつあるとともに、農耕地の荒廃、洪水調節機能の低下等とともに、住生活環境の破壊をもたらし、多くの人々の生活に脅威を与えている。

また、熱帯林には多くの種が存在するが、森林の減少に伴う有用な林木種等の絶滅も憂慮されている。

こうしたことから、UNEP、FAO 等の国際機関並びに先進国の開発途上国に対する協力事業等によって、熱帯林問題のため、資源量に対する調査、生態学的研究、試験造林の実施等が行われているが、近年の熱帯地域での大規模な森林回復の要請に対しては、生産性の高い林木種の導入が極めて重要となってきている。

熱帯地域における森林造成の目的は、地域の自然条件、社会、経済条件によってこととなるが、①多雨林及びモンスーン林地帯の広大な焼畑跡草原地の森林化による林業生産力の増強、②乾燥及び半乾燥地帯の不毛地の森林化による土地生産性の回復、③塩基集積、土壌流亡等によって荒廃した農耕地の生産力回復であり、このための森林造成が緊急を要する課題となっている。

しかし、これらの目的を達成するためには、熱帯・亜熱帯地域に賦存する多くの林木種の特性に関するデータが不可欠であるが、大部分の林木種の成長特性等は未解明である。

以上のような状況から、本事業では、熱帯・亜熱帯地域の林木種の特性に関する調査を行い、熱帯地域での大規模な森林回復に資するとともに、有用な林木種の保存のための基礎的資料を得ることとしている。